



# 10年間のご支援ありがとうございました

## 国



本郷浩二  
林野庁長官

じて地域関係者等の参加も得ながら海岸林の再生に取り組んでいただきました。この10年の間、作業の低コスト化、排水対策やクズ類の対処など御苦勞も多かったかと思ひます。また、民間からの寄附やボランティアなど地域内外の多くの方々にもプロジェクトの支援をいただきました。海岸防災林の復旧・再生に取り組まれた皆様に対しまして、10年の節目に当たり心から感謝申し上げます。

海岸防災林は、津波はもとより飛砂や強風から地域の暮らしや農業などの産業を守る役割があり、今後植栽木が成長し、防災機能を備えた森林になるためには、本数を段階的に間引いていくなど継続的に維持管理していく必要があります。今後とも、プロジェクトが地域に根ざした海岸防災林の育成に貢献されますことを御期待申し上げます。



林野庁東北森林管理局仙台森林管理署提供 (2018.8.1撮影)

東日本大震災では、津波によって青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県等の6県にまたがって海岸防災林が被災し、その復旧延長は約164kmにおよびました。本年3月11日には震災発生から10年となりますが、この間、各地で津波にも強い海岸防災林の復旧・再生の取組がなされ、クロマツ等の植栽がおおむね完了するところと見られます。

公益財団法人オイスカ及び名取市海岸林再生の会では、官民で整備協定を締結し、「東日本大震災復興支援 海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」として、約100haの海岸防災林の復旧に向け、林野庁や県が基盤となる盛土を新たに整備した上で、プロジェクトにおいて森林の整備を進めていただきました。

プロジェクトの実施に当たっては、地域住民による苗木の自家生産や地元森林組合への保育作業の委託等を通

## 市



山田司郎  
名取市長

上のまちづくり、北釜地区の集団移転事業など、限られた期間と人員で膨大な震災復興業務に取り組まなければなりません。そのような中、名取市海岸林再生の会と公益財団法人オイスカの皆様から提案いただいた本プロジェクトも第1次計画を着実に推進いただき深く敬意と感謝を申し上げます。

2021年からは第2次10ヵ年計画が始まります。これからの10年は、これまで植栽した約100haの約37万本の松が、数十年後に防砂・防風の役割を担えるかどうかに関わる、非常に重要な作業に取り組む時期と伺っております。皆様に育てられた松が、「名取市民の森」として立派に成長を果たすことを願っております。

結びに、公益財団法人オイスカの皆様、名取市海岸林再生の会の皆様、御支援いただいている全ての皆様に感謝申し上げますとともに、市民の暮らしを守る「白砂青松の松林」を未来へ繋ぐため、今後とも変わらぬ御支援、御協力をお願い申し上げます。



(2020.10.6撮影)

海岸林再生プロジェクトが10年の節目の年を迎えるにあたり、被災地の市長として、本プロジェクトに御支援いただいている皆様、ボランティア活動に御尽力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

本プロジェクト10ヵ年計画において、全国の個人や企業の皆様から約8,000件、8億円を超える貴重な御寄付を頂戴したこと、延べ11,000名のボランティアの皆様が名取市を訪れて現地作業に従事いただいたこと、心暖かい数多くの皆様に支えられたかけがえのない10年であったと感じております。

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた閑上・下増田地区の海岸林の再生は、名取市の復興に欠くことができない重要な事業です。

本プロジェクトが始まったときは、被災自治体として、避難所対応、被災者生活支援、仮設住宅建設、閑

## 県



村井嘉浩  
宮城県知事

東日本大震災から間もなく10年の節目を迎えます。この間、被災地の復旧・復興のために、多くの皆様に御支援と御協力をいただきました。

東日本大震災復興支援「海岸林再生プロジェクト」は、津波で甚大な被害を受けた名取市の海岸林の再生を目指したプロジェクトであり、NGOと行政の連携のもと、地域住民やボランティアが主体の取組として、我が県の海岸林再生の象徴的な活動となりました。

プロジェクトを主催した公益財団法人オイスカ様からの御報告によれば、全国から延べ11,000人のボランティアの皆様が植栽活動等に参加されたほか、8億円を超える寄付があり、10年に及ぶこの壮大なプロジェクトを支えたこと伺いました。改めて、多くの方々の被災地へ寄せる温かい思いや復興に貢献しようという情熱を強く感じました。

ボランティアの皆様が植栽した苗木は、現在大きいもので樹高4～5メートルに成長し、順調に生育しています。今後、植栽木が成長して、これまでのように防風や飛砂防備などの機能を十分発揮するには長い年月を要しますが、県としては、関係機関とも協力しながら適切な保育管理を進めてまいります。また、みやぎ森と緑の県民条例基本計画（新みやぎ森林・林業の将来ビジョン）に掲げる「海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大」の実現に向け、



(2016.5.21撮影)

復興整備が進む周辺集客施設等と連携を図りながら、震災で甚大な被害を受けた地域の振興に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をお願い申し上げます。

## 鈴木英二

名取市海岸林再生の会  
会長



働き詰めだったそれまでから、少しゆっくり過ごしたいと思っていた矢先の津波でした。小林省太様の10年間の取材に基づく新刊書籍「松がつなぐあした」を拝読しながら、2011年5月24日の夜、初めてオイスカの皆さんと出会う以来の無我夢中の10年を振り返りました。正直なところ、思い描いたことをここまで実行できるとは思いませんでした。プロジェクトは「未完」ですが、クロマツは見事に成長し、すでに海岸林の機能を発揮し始めています。ご支援いただいた国内外の多くの方々に心より御礼申し上げます。林業のプロから「名取の苗は良い苗」と言ってもらえたことや、被災の憂き目にあった顔なじみの皆とその苗を育てることができたこと、全国からお越しいただくボランティアの姿を想うたび、この上ない誇りに感じます。私自身も仲間とともに海沿いの生業、沿岸農業の復活に努力してきました。津

波により一面の荒野に変貌した名取耕地でしたが、いくつかの農業法人が誕生し、青梗菜、小松菜のハウス団地ができ、「創造的復興」の象徴とも言える1キロ四方の圃場が整い、イチゴやサツマイモ、イチジク栽培など新しい動きも始まりました。それらがようやく軌道に乗ったところのコロナ禍です。しかし、この海岸林再生事業が自助自立、不撓不屈の精神を貫くように、必ずこの危機を乗り越えます。

最後に一点お願いがございます。私自身は、オイスカの会員にも入会し、オイスカ宮城県支部副会長も務めながら、タイやミャンマー、インドなど国際協力の現場を視察してまいりました。創立以来60年、海外の現場で培ったノウハウを惜しみなく名取の復興に注ぎ込んでくださったことを肌で感じました。皆様方におかれましても、海岸林再生プロジェクトのみでなく、国際協力団体としてのオイスカの底力を見つめていただき、一人でも多く国際協力を支える会員になっていただければ嬉しく思います。



再生の会の研修会 (2016.2.9撮影)